覆い栽培した茶が受けるストレスの調査

近年、高品質な茶をより多く収穫するために、簡易な覆いを行う栽培が府内の茶園で拡大していますが、それに伴い茶の樹勢が低下し収量が減少する問題が生じています。

樹勢の低下は、覆い栽培を繰り返すことで生じるストレスが原因と考えられます。そこで、覆いを外した直後に茶樹が受けるストレスについて、茶業研究所と共同で調査を行いました。

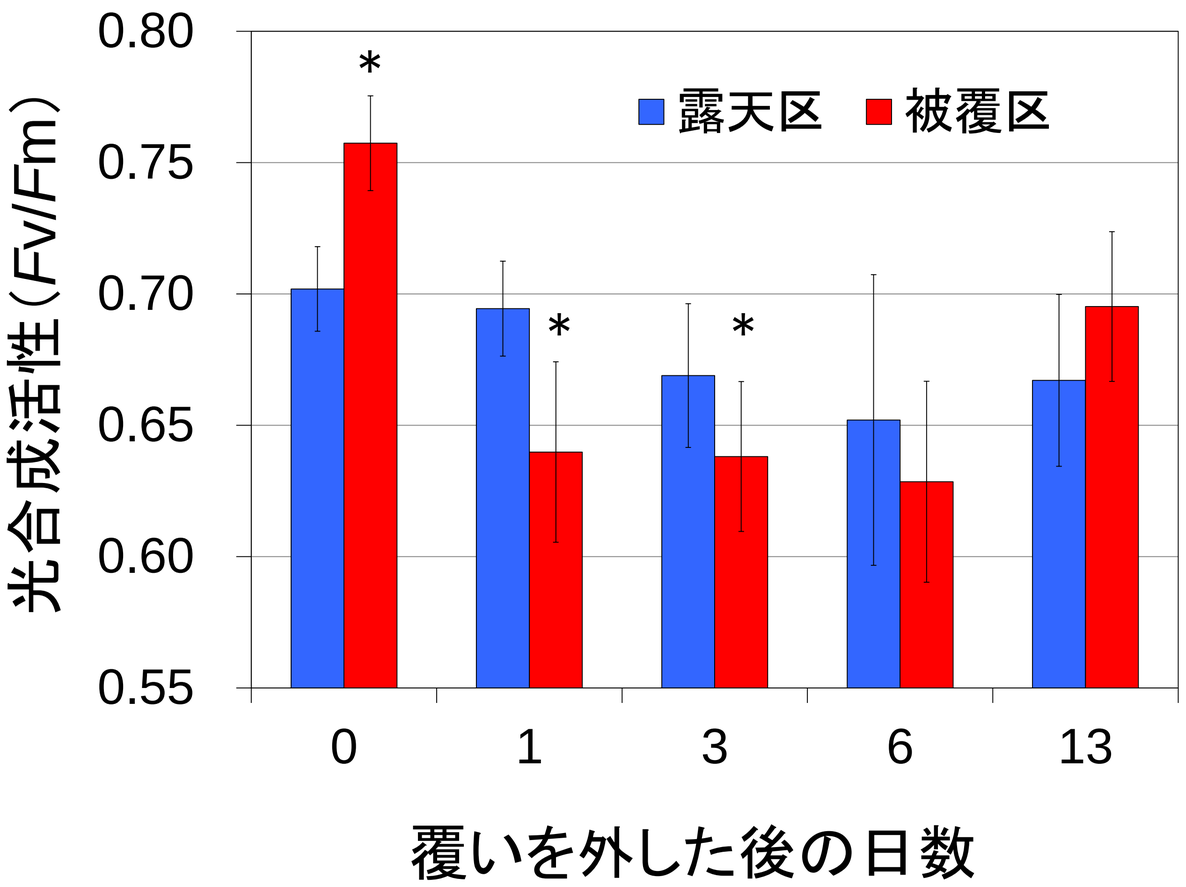
覆い栽培（被覆栽培）

通常の栽培（露天栽培）

覆い栽培（被覆栽培）

通常の栽培（露天栽培）

覆いをかけて栽培すると、テアニンなどの旨味成分や、クロロフィルなどが増加し、茶の品質が向上します。覆い栽培は、玉露や碾茶（抹茶の原料）等の高級茶の生産に用いられます。



＊は有意差があることを示す（n=9-10, 有意水準 5%）

一番茶の時期に30日間、二番茶では20日間、覆い栽培をしました。二番茶の覆いを外した後の光合成活性の変化を調べました。

その結果、覆いを外した後１～３日間は、ストレスによって光合成活性が低下していることが分かりました。

現在、覆いを外した後に起こる変化を、遺伝子レベルで調査中です。その結果から、茶が受けるストレスをより詳細に明らかにできると期待されます。